



新板
大系圖蝦夷新
三卷

八遠
657
3



門¹³ 遠
號 657
卷 3



大系^{おやけい}家^け蝦夷^{えぞ}歌^{うた} 三之卷

第一 親^{おや}不^ふ孝^{こう}か^か悪^{あく}者^{もの}の^の神^{かみ}道^ち者^{もの}

目録

積久安庫

明治三六年
九月十一日
講示

新亀屋
壹丁目

森林^{もりや}を^を大^{だい}木^きが^が以^{もつ}壇^{だん}を^を記^{しる}す^る証^{あかし}の^の書^{かき}

ひごころる^{ひごころる}後^ご叙^{しよ}と^とき^きの^の事^{こと}

才二

音楽の執音古調子の合ぬ仲る

曲のまりがかりまじのさうだとして

まじりて返答する地の筆致

才三

某の若狭を張二人固き地

和尙の情はあふ流の東をり

ありの如きぬ旅衣さるいん中

一 親小不孝か患者の神道者

止保加養。真養多女。坎良震巽。卦坤元乾。ほくしてあふきまめてたまふと。本綿禱とやうを袈裟まぐけりて。鈴とあり神乃講中。世とよめざらてされど死が。神乃の暮れりてるさやと。たのみのひとらふまらうけ。病人があきむとり出して中。辰後らうりけく。貴念仏のしとく。さんげくおしめよ。八大さんかうといふも。役行若禱とりらうさうま。尊のうとさ。病人ハ。尊ととりのがせして。りつめ。祈禱だのこよ。業よ力とつねざるを。いくちあるつものさ。ものも此中よ。うらりて。黄泉平坂の傳授。習うん

あて。ひとり會長のゆく場よりさけり病のたせらるる
りぐくい業炭計の弁へ書生あるべし。祈禱のれ
守り加持神あとのも。香水のくびりてあしふ厚利。
あともえれへもゆるぬ病人おかし。業計炭計を病
と治せりハ理あり。祈禱が持して治せりハ妙あり。妙ハ
そくごう。理ハさくしてふるがごとくこののなまじい。
ゆとせり眼あての理と識々と。達人も智志とも
いふべし。はよとあて。祈禱とあると。回好ハ。たと
その人精誠宏文少ても。悪人よまされあるるを
とる。難波南といふふよ。耗徳強戸といふる神
たふあり。りといは業坊主ありし。還俗して神たと
るづけ。佛法とありし。とて。ちとまじい。まじい。まじい。まじい。

佛道のとりかこみいと病て。人よとせり。佛壇とらざりせ。
あまごと流し。日蓮とらざりふ。人を教花らうよ。はらう
まやもく。とらるる。たととるん。とらり。は中子よ。教大
右助といふる。八百五仙倒令下と。師あり。若とゆらされ。
とまへも。とらり。とあり。らる。その親。及節。まぬ。し。と
らん。とら。後生。ねび。ひ。と。日蓮。宗。の。こと。づ。り。る。れ。だ。月
次の題目。篠。年。く。つ。と。あ。ら。う。り。し。と。大。右。助。神。及
ふ。と。な。り。て。よ。り。の。寺。集。り。の。ふ。づ。ひ。と。ま。じ。い。と。ら。ん。と。も。
め。が。り。と。ら。さ。れ。う。あ。ら。う。と。金。瓶。の。あ。ひ。ま。い。と。ら。ん。と。も。
諸。法。の。罪。の。ん。ご。う。と。親。と。子。と。遍。屋。よ。ま。す。と。ひ
て。ら。し。も。父。子。ふ。知。よ。あ。り。て。も。親。の。み。と。思。ふ。あ。ら。り。の
や。も。と。て。邪。見。と。ら。げ。さ。と。世。と。あ。ら。ぬ。あ。使。さ。り。や。ま

ひそふお解とて一と熱をの次系がひらつてこの
個子よん七國のさう一あつたれつりとやとされど
比氏鐵は何のまけもつりあをん乾のちらひを
びとやんられど。あたまが汗をまらふられど
まておうきどとぬれもや一ぬれまらと味
ととげられど。熱を流し系取の弁よおどろき
熱い熱ふられど。暖かひくさる熱をり。たろえを
ぬのひらつてさうと個子と知るさうなぬれと
つた。らあまつくその方が。すどり熱をたといおね
まむ。そのまけもあるや。まともな系へのわり。まら
と師とりての熱を。傳授あまらるられど。個子
とまてさう一とまらり。その方が個子七國のさう一

熱をさう一とつらつてさう一とぬれとあせり念何とせうと
何とさう一と。熱を。まらりつて。比氏もまら一系
どてまらひらる。いづきはよの熱を。傳授あまら
まら。昨日まらよめいくの熱を。初とまらて出
る一とあつて。あつても。あつても。あつても。あつても
熱を。右の熱を。まらる。たろえ。師。通。熱。一
とる。お。ゆ。ん。系統の。巻。相。師。通。西。域。氏。より。つ。つ。り
た。ま。た。熱。治。り。さう。あつて。さう。まら。べ。さ。系。ま。ら
あ。い。が。の。まら。んと。まら。ど。まら。ん。今。まら。ん。だ。の。も
し。て。あ。つて。り。まら。ひ。まら。ど。まら。ゆ。は。り。まら。り。まら。ん。と
い。まら。よ。まら。して。自。然。まら。つ。け。まら。ふ。か。まら。ど
の。まら。の。熱。を。まら。さ。う。まら。て。水。まら。まら。せて。ひ。まら。られ。ど。

いづまはあひらるるよし。是こそと打よらるる。翌日
 さうく双丸比尺へまもり出らるる。たる元へ師
 傳の書付とさうとらるる。越後も一巻とさうと
 りてうこの書付いたる元このさうよ。新規
 書らおいていり。先祖代くの二巻おられあぐら。所
 後下まぐりといふ。封とさうて一巻めさるれども。
 書系お傳のす。尊徳さふりけ方。お續お遠を
 さりのまり。あはは志の書樂後發。これあより
 介より新人西をさ。うらうさをも松信屋お。忠友
 そのめくうめいともなく。後日の上あ樂人諸状。仍
 ぐんのぞし。永久元年七月八日。越後治意友
 なる。天智天皇御判と。さうも判飛。是は越後と

りよお文字なれと。比尺もことごとく。わされとて
 あうられも。あまりののすよ。志をうく。あうけ
 見えよ。おのきうら作。まふとも。後。お屋な
 せども。あまり文。そ目する。一巻。さうとさう
 りのよ。あ。あ人。を。あひ。筆。筆。と。さうさう。ふ
 べしと。六。あ。お。と。音と。さうて。吹。あ。せ。た。れ。ど。
 くれ。さう。さう。お。も。う。く。海。の。あ。ぬ。さん。ご。う。お。て。
 す。ま。さ。う。ら。る。お。あ。り。東。都。より。松。次。検。校。と。い。ふ
 琴。の。よ。お。さ。う。ら。あ。を。せ。ら。ら。と。あ。さ。れ。て。は。ひ。ら。ま
 さ。と。さ。せ。ら。ら。さ。ら。ら。お。換。校。あ。ら。く。ま。し。ひ。し。て。
 守。て。お。さ。ら。ら。ら。ら。ら。お。同。倉。お。れ。ど。と。て。あ。さ。と
 書。ぶ。と。さ。て。吹。め。の。も。あ。く。め。の。お。さ。う。あ。さ。と

のくもち家と名の具黒はらぐた。洞子よらめそ
ハ若別々一人のあつをふい。系類をよめてハは
くへ直。鉛賣うぬハ曲よまり。るもさ芝居で
ふく。ちりちりの洞子まり。檀紙も紙もま紙。
らり紙も紙もれど。たえむ系のお人のふくふが。
檀紙もままらむ。せめてはぬんがひらまき。ちり
紙もあつれんよけきた。そのまよとちられする音
津。太神宗うはをぬき。のうご。ちりちりありいら
まよと。ちりちりありんぬふれどとと。あのちりめを
洞子のあつをひい。人となまけよあつる快と。猿と
くくして月くも。比及職も。ふが笑ひよありて。今史
とちりちりむ。わらむいとやめて。あめちり曲よまり

のねよよへくなら。洞子もあつぬひらつととと
吹て。りー人のふよ感ド。うごん。粗末よまらむ
ととあれどぐく。損おねやむ。ととあつるせ
てさちり。あつてそのととらその。義の。正美あれ
たまづの習ひ。おてはよらり。ちり洞よ。鶴鶴の模
ら者多し。百口二百口。乃至一年二口。を系
して師とちり。その師流。悉く。是へちりといふ
たぐぬ。大うさゆん。むんむん。とちりとなる

三 業の石と云張二人固志地

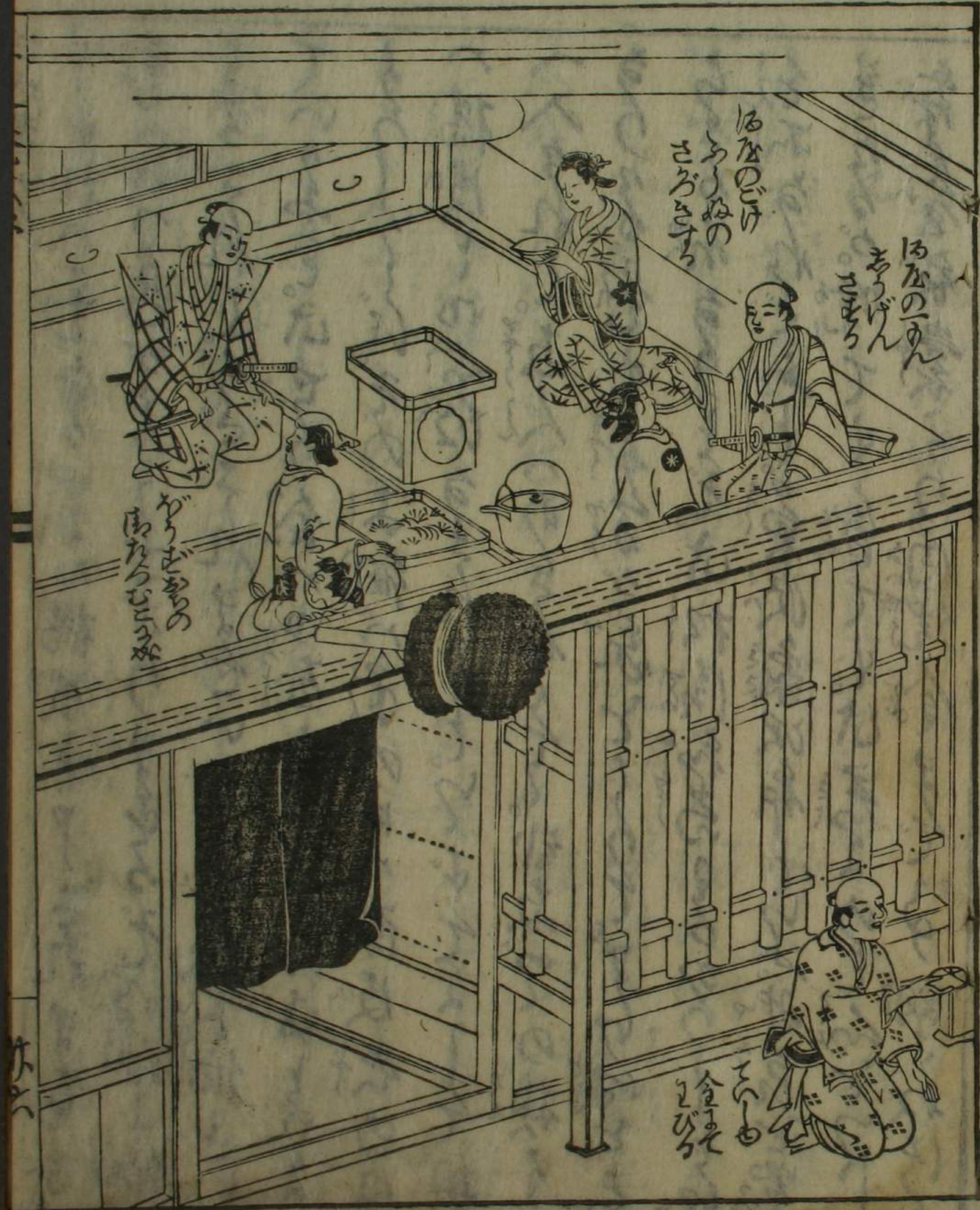
後余友の三四。安西の沫七希とちり人あり。び人
の鏡。およ。是内とりよ。老。至人。沫七希。泉。留の。四代

と男よりのいふくめんぬりあふべ。そのうへ亭
をめぐり命。と数文のやまの命ごす。さあふくもさ
なれ。さうと一うらざらふゆへ。又くお候してふ
貴文より。七貴文よつけあげ。さうく令在あま
てよまびくた。やしくさくを祈ふわらび。そ
ろく大肌脱よりりていりまじ。家内りてあつら
ひ三十あとりよ命子。身ととり入てあふくた。お
らうしてせめてみねあすねらさんと。おさし
るまべき。おまごさ。さうありたつ。ませう程
あし。大せいのちかりて。さむおみよ柄あつこと
おれ。竹光のつどりし。虫の入らるか。さう。おれ
やうとさう。さうつり。とめられた。さう。あつらとさう

く。と。こけありけむ。今まてり。さあひさる。おれ
よんふがんまりとまりて。境く。とちりさう
るひ。うねうへうらとり。さる。おれの正統とさ
けうき。さうのどく。おみよ。うづき。さうなづさ
あひ。三千あのを金も揚よへひけた。さう内へあひ
あつら。丸つた。おまう。うらま。さう。さあ。さ
ろひ。あつた。せめて。銭。ニ。マ。タ。な。れ。ら。ま。さ。う。と。り。た。
い。く。ま。る。め。の。ひ。ま。り。も。お。く。命。カ。ド。と。ら。み。え。
後。百。文。ま。さ。う。な。れ。た。い。り。お。お。せ。後。と。礼。と。り。か
て。り。て。さ。う。さ。う。と。さ。う。ら。さ。う。ら。る。竹。葉。集
ろ。ご。ら。藤。人。の。並。と。つ。け。り。時。さ。う。け。て。ゆ。げ。ん。よ。い。よ。
さ。う。ら。り。ぞ。こ。り。あ。て。貸。さ。う。あ。て。も。か。う。ぬ。時。の。と。く。

抱ハナリケシラシグぬけてハ。おと人もさびへもゆりぬ
りのまゝ。是よつけて系類。おまひり細うて。標よ
たをねむらう。きぬとて。解る。けり。おまひり。おまひり
けり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり
むり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり
おまひり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり
解とひり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり
のめをよいと。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり
あやまり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり
く。陳皮。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり
口あまり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり
る。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり

あてと系。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり
る。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり
よりの。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり
との。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり
さ。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり
り。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり
く。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり
。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり
。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり
との。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり
ふ。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり
る。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり。おまひり



はなののけ
あしぬの
さぶさす
はなののあん
まうげん
なまろ

あうげん
あうげん
あうげん

あうげん
あうげん
あうげん



松原けんげう
あうげん
あうげん

あうげん
あうげん
あうげん

あうげん
あうげん
あうげん

あうげん
あうげん
あうげん

あうげん
あうげん
あうげん

あうげん
あうげん
あうげん

あうげん
あうげん
あうげん

ふりき仲とありける。あつらふ象沼帝。雲霧一
いのちひらきこもて。徳念の芝居なり。かふよの
がりありひらぬ大金ゆへ。象沼帝親方徳念
へ目のまゝ習て。さうそくよと打てよとあり
くごまを後新書ひよりさう習て。さぬぐよを
がわてんあんども。それ程の念まへそのひびた
ゆへ。や今さうさうた。徳念もあつた徳念へ
ふりかちぬをえんせんと。汲みぐうよさうれけ
るよ。象沼帝へのり相あらまき。のりけ結
相す。又くぬつ。つゆは徳念へさうりたる。和
ももたまりよて還俗し。に糸の床ぐそゆひ
の床子とあり。徳念とゆひあひ何とぞ象沼帝が

あんがうのつとまる程。精のつりしゆへや。徳
念のまういめのと。おようんぬ。なごよゆひあひ。す
年とらて後いさりの徳念。徳念よついでさうく
徳念よさうりぬ。さうちつわて。芝居とんよゆ
けども。象沼帝へ出た。是のさうと。と
がんのおと。そゆてえれた。その相みる。あま
もあうんぬ。びごさひ子もまいと。よゆへ。だそ
がそんのゆりぬと。いあひあがう。それありあ
還る。宿の徳念。一敷の酒を。念の
とるも。身と。け家の子代よ。あまありてか
る。る。は酒をの。さう。はねて。徳念の
ちとあげ。さう。すう。さう。と。

此後家縁でうなありつらん。さうんの坊を為す思ひ
つき。志のぶくへのちざりも。今ハ困どて一門より
とりめら。いつとあくは家のあつとある。桐谷を
の法に美として。あつねあつあく日月とたよ。象次を
るもままれ。業む時と地たる。いりある。あけの
宿後あやと。おろく。まがでよ。まが象とまで。見るも
おろし。坊をばらと見る。まがでよ。何がみぐく。後よ
まこと。ぬる。後よ。振が。飛ぶと。まが。まが。まが。まが。
さうり。まが。まが。まが。まが。まが。まが。まが。まが。
か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。
ま。代。代。代。代。代。代。代。代。代。代。代。代。代。代。代。代。代。代。
と。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。

あつねあつあく。まが。まが。まが。まが。まが。まが。まが。まが。
さうり。まが。まが。まが。まが。まが。まが。まが。まが。まが。まが。まが。まが。まが。
か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。
ま。代。代。代。代。代。代。代。代。代。代。代。代。代。代。代。代。代。代。
と。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。

三之巻終

積久文庫

新電屋
壹丁目

